

日本気象学会 昭和54年春季大会

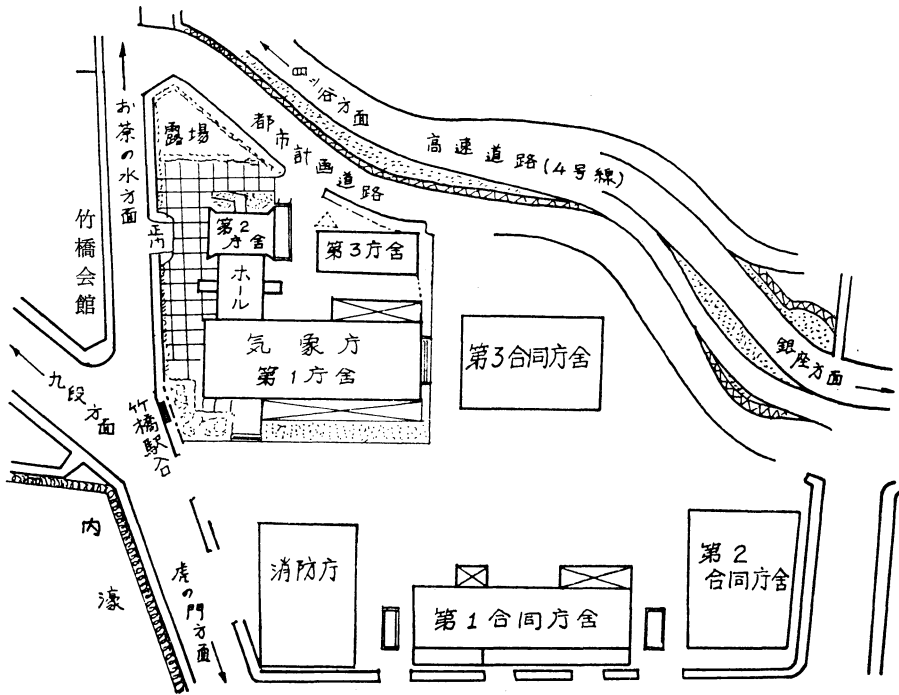
会期：昭和54年5月22日（火），23日（水），24日（木）

会場：気象庁・竹橋会館（東京都千代田区大手町1丁目）

目次

大会行事予定表	185
総会次第	185
研究発表内容一覧	186
研究発表題目	187~192

会場案内図



(道順) 地下鉄東西線竹橋下車がもっとも便利です。

* 本大会の「大会参加申込書」用紙は「講演予稿集」に綴じ込まれていますので、予め記入の上、忘れずに当日会場受付までご持参ください（当日、会場受付には若干部しか用意してありません）。

大会行事予定表

1. 会場：
 - 第1会場：気象庁 講堂
 - 第2会場： " 第1会議室
 - 第3会場：竹橋会館
2. 会期：5月22日（火）、23日（水）、24日（木）
3. 行事

行事	
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月22日（火）09：00～12：30
"	" 13：30～17：30
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月23日（水）09：00～12：00
シンポジウム（第1会場）	" 13：00～15：00
総会（ " ）	" 15：00～
学会賞藤原賞記念講演（ " ）	" ～17：00
懇親会	" 17：30～
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月24日（木）09：00～12：30
"	" 13：30～17：00

大会委員長 未定

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和53年度事業経過報告
7. " 会計決算報告
8. " 会計監査報告
9. 昭和54年度予算案・事業計画案の審議
10. 山本賞（気象学会の部）受賞者選定規定について
11. 同上設定に伴い学会賞および藤原賞（気象学会の部）受賞者選定規定の一部改正について
12. 日本気象学会定款のうちの細則の一部改正について
13. その他
14. 気象学会賞受賞記念講演
15. 藤原賞受賞記念講演

昭和54年春季大会

() : 講演番号, — : 座長

	第 1 会 場		第 2 会 場		第 3 会 場	
5月22日 (火)	09:00~ 12:30	総観・中規模現象Ⅰ (101~109) —櫃間道夫—	09:00~ 12:30	応用気象 (201~211) —当舎万寿夫—	09:00~ 12:30	放 射 (301~313) —広野幹彦—
	13:30~ 17:00	総観・中規模現象Ⅱ (110~121) —吉住禎夫—	13:30~ 17:30	エクマン境界層・局地 循環 (212~224) —菊地幸雄—	13:30~ 17:00	エーロゾル (314~327) —岩坂泰信—
5月23日 (水)	09:00~ 12:00	大気汚染 (122~132) —吉川友章—	09:00~ 12:00	力学・高層大気 (225~236) —川平浩三—	09:00~ 12:00	大気化学 (328~332) —杉村行勇— 観測手法 (333~332) —高島 勉—
	13:00~ 15:00 15:00~ 17:00	シンポジウム 総会・記念講演				
5月24日 (木)	09:00~ 12:30	接地境界層Ⅰ (133~143) —内藤玄—	09:00~ 12:00	気 候 (237~244) —森 信成—	09:30~ 12:30	雲物理・大気電気Ⅰ (337~346) —佐藤純男—
	13:30~ 17:00	接地境界層Ⅱ (144~154) —真木太—	13:30~ 17:00	熱帯気象・台風 (245~258) —村上勝人—	13:30~ 17:00	雲物理・大気電気Ⅱ (347~357) —駒林 誠—

シンポジウム「中層大気の組成と力学」

——MAP (中層大気観測計画) に関連して——

1. 日時 大会第2日 (23日)
2. 会場 第1会場
3. 座長 沢田竜吉 (九州大学)
4. 話題提供者

関口理郎 (気象庁) : MAP について

三崎方郎 (気研・高物) : 中層大会の組成とエーロゾル

松野太郎 (東京大学・理) : 中層大気の力学

講演発表者へのお願

1. スライドのマウントに番号をつけること
2. スライドの上下を揃え, 分かるようにすること
3. スライドの標準枚数は6~8枚です
4. 持ち時間 (15分~20分) を超過したときは中止していただくことがあります。

研究発表題目

大会第1日(5月22日) 9時00分~12時30分

第1会場 総観・中規模現象 I

座長 櫃 間 道 夫

101. 後町幸雄(京大・防災研): 鈴鹿山脈周辺の大雨の特性(2)
102. 近野好文・菊地勝弘(北大・理)・元木敏博(札幌・予報): 北海道胆振地方の降雨特性
103. 吉住禎夫(気研・予報): Warm Front 型の梅雨前線帯の特徴
104. 二宮洸三(気象庁・電計): メソグリッドモデルによる梅雨前線の降雨(予備的実験)
105. 山崎孝治(気研・予報)・二宮洸三(気象庁・電計): Arakawa-Schubert 積雲モデルの豪雨時のリアルデータに対する応答
106. 猪川元興(気研・予報)・加藤一靖・中島 忍(気象衛星センター・システム管理): アメダス・衛星の客観解析システムの開発と、そこで用いられている客観解析法のテスト
107. 加藤一靖・中島 忍(気象衛星センター・システム管理)・猪川元興(気象研究所・予報): 静止気象衛星“ひまわり”の赤外・可視のデジタルデータと降水量と対応。(1)予備的調査——対流性強雨の場合
108. 猪川元興(気研・予報): “前線”の通過に伴って見られたアメダスの降雨量, 地上風の収束・渦度, 地上気温の変化
109. 山川修治(都立大・大学院): 寒冷前線に伴う熱界雷の中央日本における解析

第2会場 応用気象

座長 当 舎 万 寿 夫

201. 堀田健治(日大・理工): 地域別によるモデル台風について(そのI)
202. 堀田健治(日大・理工): 地域別によるモデル台風について(そのII)
203. 赤井清康(関東地区): 暖房による室温の定常と供給熱量
204. 当舎万寿夫(気研・台風)・菅原十一(自然教育園): 都市林地域の蒸発量測定
205. 新井正一・阿部友三郎・寺山 隆・中島光雄(東理大): 飛砂に関する研究, 埋め立て地における浮遊砂の濃度分布について
206. 八木鶴平・上田 博・清野 裕(国立防災センタ

ー): 昭和53年の干ばつによる茨城県の農作物被害について

207. 大和田道雄(愛教大・地理): 名古屋市における環境気候区分
208. 浦野 弘(東京都・瑞穂町立瑞穂中学校): 中学校気象教育の問題点と改善について——スケールの違いを考えさせる教材——
209. 和田政金(気象庁・産業気象): 生物季節の観測種目間の関係と代表性(大型電子計算機による日本最初の生物季節の解析)
210. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋台)・佐藤洋子(九大・工): 屋久杉年輪の周期に現われる地震の発現間隔
211. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋台)・佐藤洋子(九大・工): 年輪の成長速度と地震による異変

第3会場 放射

座長 広 野 幹 彦

301. 会田 勝・谷治正孝・大井祐成・清水英一(横浜国大・教育)・高橋佳昭(アジア航測KK): 都市のアルベド(II) 航空機観測と広域マップの作成
302. 一木明紀・酒井重典・忠鉢 繁・大野勇太(高層気象台): 雲量と長波長放射量の関係
303. 嘉納宗靖・池上比呂志(気研・高物): 昼間の長波長および全波長放射の評価について
304. 小林隆久(気研・応用): 混濁係数とエアロゾルの粒径分布及び粒子数の関係
305. 総合観測グループ(田中正之・高村民雄・中島映至・山野 牧(東北大)・村井潔三・小林正治・後藤良三・山内豊太郎(気象研): 大気中エアロゾルの光学的特性の総合的測定(I)
306. 総合観測グループ(田中正之・高村民雄・中島映至・山野 牧(東北大)・村井潔三・小林正治・後藤良三・山内豊太郎(気研): 大気中エアロゾルの光学的特性の総合的測定(II)
307. 田中正之・高村民雄・中島映至(東北大・理): 散乱微分断面積の測定によるエアロゾルの粒径分布と複素屈折率の推定(III)
308. 三田昭吉(名大・水圏研): 吸収物質を含む混合粒子の光学的性質
309. 小野 晃・吉澤宣之(名大・水圏研): 火山灰, 黄

- 砂の赤外領域における吸収特性
310. 廣野幹彦(新潟大・工): HClの吸収線の半幅値
311. 中澤高典・田中正之(東北大・理): 一酸化炭素吸収線の半幅値及び強度 I. 300Kでの測定
312. 佐藤隆夫(長崎大学): 第n次散乱光における位相関数(IV)
313. 佐藤隆夫(長崎大学): 第n次散乱光における位相関数(V)

大会第1日(5月22日) 13時30分~17時30分

第1会場 総観・中規模現象 座長 吉住禎夫

110. 廣瀬元孝・青木 孝・本多君子(気研・予報): 強風の短時間予測技術の開発(第1報)
111. 山口一洋・大西外史(防衛大学校): 客観解析に及ぼす測定点分布の影響
112. 長谷川隆司(気象衛星センター): 気象衛星資料からみた土佐沖低気圧
113. 櫃間道夫(気象庁・予報): 本州南岸沖を西進して発達する中規模の雲域
114. 門脇俊一郎(気象庁・電計): 房総沖における小低気圧の発生とその一例—1976年3月2日の場合
115. 小沢 正・内山良子(気研・予報): 日降雪量の統計的解析(Ⅲ)
116. 秋山孝子(気研・予報): 冬期, 新潟県の降水分布特性
117. 舟田久之・岡村敏夫(東京管区): 北陸大雪時のリーダーエコーと降雪分布について
118. 穂積邦彦・孫野長治(北大・理): 新潟県豪雪時の日本海収束帯の消長について
119. 八木正允・内山徳栄・内田英治(気研)・黒川信彦(気象庁)・阿部勝宏(気象衛星): 冬季日本海でみられた transverse モードの雲列の解析(I)
120. 大野久雄・磯野良徳(東航地台): GMS 画像にみるシーラストランスヴァース ラインの波長
121. 村松照男(気象衛星センター): 北陸地方の里雪型大雪時における日本海西部の Cb Cu ライン

第2会場 エクマン境界層・局地循環

座長 菊地幸雄

212. 新田 勅・蘇 鮮燮(東大・理): AMTEX '75 における対流混合層の構造
213. 新田 勅・蘇 鮮燮(東大・理): AMTEX '75 の熱, 水蒸気, 運動量収支と積雲の役割
214. 沢井哲滋(札幌・予報): 積丹半島積丹岬灯台での強風時の風向特性
215. 山崎孝治・時岡達志(気研・予報): GCM のための境界層と積雲モデルのテスト(Ⅱ)

216. 中村晃三・浅井富雄(東大・海洋研): 気団変質の数値実験— $2\frac{1}{2}$ 次元モデル—(その2: 鉛直シアーのある風系)
217. 原田 朗(気研・応用): 夜間に発生する接地層のサイクロニックな移動性小じょう乱について
218. 浅井富雄・藤部文昭(東大・海洋研): 関東地方における局地風の研究(2) 日変化を伴う風系の構造
219. 浅井富雄・藤部文昭(東大・海洋研): 関東地方における局地風の研究(3) 東京のヒートアイランドに伴う風系
220. 菊池幸雄(気研・応用)・荒川正一(気大)・白崎航一(気大)・長野美文(気象庁・電計)・木村富士男(気研・応用): 関東地方の海陸風に及ぼす山岳の影響について(数値シミュレーション)
221. 早川誠而・坂上 務・元田雄四郎(九大・農): 局地熱源の大きさとそれに伴う対流の特性
222. 渡辺 明(福島大): 3時間風速変動量の Spectrum Analysis からみた関東地域の局地性について
223. 土屋 巖: 地表面温度測定とヒートアイランド現象
224. 七沢 謙(網走地台): オホーツク海沿岸の海陸風と気温の変化

第3会場 エアロゾル 座長 岩坂泰信

314. 岩井邦中(信州大・教): 南極・昭和基地におけるエアロゾルの観測(1) エートケン粒子濃度の年変化について
315. 岩井邦中(信州大・教): 南極・昭和基地におけるエアロゾルの観測(2) 大粒子・巨大粒子の湿度特性について
316. 伊藤朋之(気研・物理気象): 南極大気中のエートケン核の揮発特性について
317. 藤村 満・金 熙江・長橋 朗(慶大・工)・矢野直(気研・応用): 海洋性硫酸塩エアロゾルの粒度分布について
318. 岩坂泰信・長屋勝博・岡田菊夫(名大・水圏研):

- 2 波長ライダーによる下部対流圏エアロゾルの粒径分布決定法——飛行機との同時観測への結果について——
319. 中谷 茂(電総研)・角田智良(環境アセスメントシステム)・蛭田陽一(成城高校): 気象変化に伴う微小エアロゾルの粒径分布の変動
320. 笹野泰弘・清水 浩・竹内延夫・奥田典夫(国立公害研): エアロゾル空間濃度分布スケールについて
321. 北川信一郎・高橋忠司(埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎(気研)・中谷 茂(電総研)・関川公成・増田純夫・角田智良・望月 定(東理大・理)・首藤克彦・児島 紘(東理大・理工): 大都市およびその周辺地域におけるエアロゾルの分布と変動の研究(第6報)
322. 武田喬男・岡田菊夫・村林 成(名大・水圏研): 都市およびその周辺上空におけるエアロゾルの垂直輸送
323. 小野 晃(名大・水圏研)・伊藤朋之(気研・物理)・岩井邦中(信大・教育): 対流圏エアロゾルの地球的規模での挙動に関する研究(I)——南北両半球の海洋上における sulfate 粒子の分布——
324. 村上正隆(北大・環境)・孫野長治(北大・理): 雲粒によるエアロゾル除去作用の観測
325. 朝来野国彦・小野塚春吉・伊瀬洋昭(東京都・公害研): 父島におけるエアロゾルの性状について
326. 小林愛樹智・岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エアロゾル層の形成(1)
327. 岩坂泰信(名大・水圏研)・L. Thomas (Applton Lab.): 上部成層圏及び中間圏におけるエアロゾルがイオン濃度分布に与える影響について

大会第2日(5月23日) 9時00分~12時00分

第1会場 大気汚染

座長 吉川友章

122. 河村 武(筑波大・地球科学): わが国における都市の大気汚染の変遷
123. 新光谷三(日本気象協会中央本部): Ox の発生状況の経年変化と気象条件の解析
124. 大和田道雄(愛教大・地理)・橋本寿朗(愛教大・地理・大学院)・名古屋市における Ox の分布について
125. 鶴田治雄・牧野 宏・安田憲二ほか(神奈川県臨海地区大気汚染調査協議会): 京浜工業地帯より排出される窒素酸化物の輸送および反応過程に関する立体観測(その1)
126. 鶴田治雄・牧野 宏・安田憲二ほか(神奈川県臨海地区大気汚染調査協議会): 京浜工業地帯より排出される窒素酸化物の輸送および反応過程に関する立体観測(その2)
127. 渡辺 明(福島大): 吾妻山火山噴出物による福島市内の SO₂ 大気汚染について
128. 平松 親・孫野長治(北大・環境研): 札幌市の大気環境 II ——SO₂ 濃度及び風速の水平分布の日変化——
129. 吉川友章(気研・応用)・村岡正康(数理計画): 拡散方程式の数値解法について
130. 岡本真一・塩沢清茂(早大・理工): 拡散モデルに

よる大気汚染シミュレーション(第10報)——準定常ブルームモデル——

131. 岡本真一・村上俊一・塩沢清茂(早大・理工): 拡散実験データの解析(第2報)——水平方向の濃度分布と水平拡散幅 σ_y について——
132. 木村富士男(気研・応用): 2次元モデルによる海陸風と大気汚染のシミュレーション

第2会場 力学・高層大気

座長 川平浩三

225. 関原 躍(気研): 太陽活動と気象現象の関係のメカニズム
226. 長谷部文雄(京大・理): オゾン全量の変動のグローバルな解析
227. 千葉 長・矢島栄三(気研・予報): 等圧面高度の短周期変動
228. 岸保勘三郎(東大・理): 振動数領域における超長波うず度のスペクトラム強度
229. 川平浩二(京大・理): 定常プラネタリー波の全球構造(1)
230. 神沢 博(京大・理): 突然昇温時における平均流およびプラネタリー波の振舞(その2)
231. 里村雄彦(東大・理): 対流の3次元数値実験における振動について
232. 田中隆一(気象庁・図書): 細胞状対流の循環型式について

233. 吉崎正憲(東大・海洋研): シア流中の対流の有限振幅論(1)
234. 余田成男(京大・理): 南北自由度を増した model における vacillation について
235. 田中 浩(名大・水圏研): 内部重力波の非線型臨界層(ロスビー波との比較において)
236. 中村 一(東大・理): Skipped Grid の差分誤差
- 第3会場 大気化学** 座長 杉 村 行 勇
328. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・猿橋勝子・金沢照子(気研): トリチウムと⁹⁰Srの降下について
329. 鈴木 歎・杉村行勇(気研)・三宅泰雄(地化協): 日本における微量金属元素の降下量について
330. 杉村行勇・葛城幸雄・猿橋勝子・広瀬勝己(気研)・三宅泰雄(地球化学研究協会): 東京における大気中の^{239,240}Pu含量
331. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・川村 清・葛城

幸雄(気研・地球化学): 東京における降水中のトリチウム濃度について

332. 村松久史・広田道夫・牧野行雄(気研): 成層圏汚染-オゾン層の破壊-に関する研究(2) 大気中におけるフロン-11, -12および亜酸化窒素の濃度

第3会場 観測手法 座長 高 島 勉

333. 阿部勝宏(気象衛星センター): 静止気象衛星“ひまわり”による海面水温と船舶データの比較
334. 高島 勉・高山陽三・鯉沼正一: リモートセンシングによる3.9 μm 窓領域の利用について
335. 青木忠生・井上豊志郎(気象衛星センター): 10 μm “大気の窓”の放射に含まれる情報について
336. 宗山 敬(海洋科学技術センター)・高橋佳昭(アジア航測): リモートセンシングにおける大気効果の補正について(水蒸気量を影響因子として)

大会第3日(5月25日) 9時00分~12時30分

第1会場 接地境界層 I 座長 内 藤 玄 一

133. 水野建樹・横山長之(公資研)・安楽岡顕(数理計画): 大気境界層中での煙の鉛直拡散幅(第二報)
134. 植田洋匡・光本茂記(国立公害研): 成層化した接地気層の速度分布について
135. 竹内衛夫・内山徳栄(気研・予報): 海洋表面風の計算方法(I)
136. 植田洋匡(国立公害研)・福井啓介(姫工大)・浜田光生(三和工機): 混合層内の乱流輸送現象——第一報: 熱伝達——
137. 根本 茂・竹内 薫・豊田晶子(お茶の水大・理): 乱流境界層の厚さに関する実験式(風洞実験)
138. 加藤真規子(お茶大・理): 乱流拡散に及ぼす温度成層の影響(III)
139. 水野建樹(公資研): 乱流の空間構造について
140. 古藤田一雄・林 陽生(筑波大学・水理実験センター): Flexible な粗度要素上の風速分布パラメーターの相互関係
141. 真木太一(農技研・気象科): 植被層内外の乱流要素の垂直分布
142. 米谷俊彦(岡山大・農生研)・佐藤 勉(岡山大・工)・大滝英治(岡山大・教養): 植物群落上の乱流特性について(VII)

143. 米谷俊彦(岡山大・農生研)・竹内敬二(日本気象協会・北海道本部)・瀬尾琢郎(岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について(VIII)

第3会場 気候 座長 森 信 成

237. 須田滝雄(岐阜大・農学部): 大循環に及ぼす火山噴火と太陽活動の影響
238. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養): 帯状平均地上気温の変動の特性について
239. 真野裕三(京大・防災研): 500 MB 高度場の長期変動の特徴について
240. 真野裕三(京大・防災研): 地域差を考慮した冬期日本海側の降水量の長期変動
241. 地迫良一(舞鶴海洋台): 500 mb 地衡風東西成分の日本海海面水温予想への応用について
242. 北出寿江(気研・応用): 工業活動と降水量の変化——製紙工業との関係について——
243. 小元敬男(大阪府大・農): 気候データに含まれる都市気候の影響度の評価の試み
244. 小元敬男・鱧谷 憲(大阪府大・農): 東京・大阪および京都の各気象台の気候資料に含まれる都市気候効果の変動

第3会場 雲物理・大気電気 I 座長 佐藤 純 男

337. 谷口 宏(地震予知ク): 地震発生前の異常雲
338. 土肥亮一・佐々木康二・石川原節男・大沢綱一郎

- (東京理大): 富士山「吊し雲」の写真測量 (2) 結果の一例
339. 勝山 税・長島 浩・加納龍夫・大沢綱一郎(東京理大): 富士山「吊し雲」の写真測量 (1) 計算公式
340. 小花隆司(気象衛星センター): 地形性絹雲 (Orographically enhanced cirrus) 第1報
341. 小野 晃・大谷 健(名大・水圏研): 大気中の硫酸塩を含む粒子の雲核としての機能について
342. 藤原美幸・市村市太郎・柳瀬利子(気研・台風):

- 層積雲の微物理学的微細構造について
343. 田中豊顕(気研・物理)・成瀬 弘(気研・応用): 雲核および氷晶核の高度分布
344. 権田武彦・山崎 利夫・大沢 綱一郎(東理大・理工): 凍結微水滴から樹枝状結晶への成長過程
345. 権田武彦・難波淳一・高見光吉(東理大・理工): 高圧ガス中で成長する雪結晶の形態
346. 権田武彦・須藤昌美・山崎利夫(東理大・理工): 低温箱内で成長する雪結晶の粒径変化

大会第3日 (5月25日) 13時30分~17時00分

第1会場 接地境界層 II 座長 真木 太一

144. 森 征洋(香川大・教育)・光田 寧(京大・防災研): 風速変動の長周期成分について (VI)
145. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 大気下層における乱流統計量の観測
146. 藤谷徳之助・花房龍男(気研・物理): 運動量輸送量の高度変化について (III)
147. 千葉 修(高知大・理): 風が弱い時の平均風速垂直分布のパターン分類とその特徴
148. 安達隆史(日本気象協会・研究所): 夜間微風時の乱流特性(微風構造の研究 IX)
149. 大滝英治(岡山大・養): 魚島での炭酸ガス観測
150. 北林興二(公資研)・加藤雅弘(東海大): 熱線風速計による大気乱流測定
151. 内藤玄一(防災センター): 熱電対乾湿計を用いた蒸発量の測定
152. 林 正康(公資研)・池田明宏(東海大): ソーダによる大気境界層の観測 5. ファクシミル記録の分類
153. 福島 圓・秋田錦一郎・増田悦久(電波研): ラス・レーダ(電波音波共用探査装置)の開発研究(第1報)
154. 山崎啓夫*・笹野泰弘・清水 浩・竹内延夫・奥田典夫・河村 武*(*筑波大・環境科学, 国立公害研): エーロゾルをトレーサーとしたレーザーレーダーによる風向・風速の測定

第2会場 熱帯気象・台風 座長 村上 勝人

245. 新田 勅(東大・理): 熱帯太平洋偏東風の力学不安定
246. 佐藤康雄(東大・海洋研): モンスーン中層低気圧

の力学モデル(続1)

247. 田中 実(筑波大・大学院): 南アジア地域における夏のモンスーンの変動 (I)
248. 田中 実(筑波大・大学院): 南アジア地域における夏のモンスーンの変動 (II)
249. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 熱帯成層圏の等圧面高度の変動の解析
250. 中村健次(気象衛星センター): 熱帯における静止気象衛星観測による雲移動ベクトルと雲量のスペクトル解析
251. 嶋村 克(気象衛星センター): GMS 資料を用いた北西太平洋熱帯における Uppe Level Cold Low の解析
252. 嶋村 克(気象衛星センター): GMS 資料による深い対流活動の解析
253. 島田健司・橋本昇三(気象衛星センター): 静止気象衛星“ひまわり”の赤外デジタルデータによる台風中心の推定について
254. 饒村 曜(気象庁・予報): 台風の移動について (PART I)
255. 光田 寧・塚本 修・末延龍雄(京大・防災研): 地上観測資料からみた台風の構造について
256. 光田 寧(京大・防災研)・藤井 健(京都産業大・教養)・川平浩二(京大・理): 改良された標準計画台風(2)——気圧場から地表風の推定——
257. 林 昌世・浅井富雄(東大・海洋研): 台風7617号の構造についての解析
258. 山下 洋・小平信彦・渡辺和夫(気象衛星センター): GMS 赤外画像の長期動画

第3会場 雲物理・大気電気 座長 駒 林 誠

347. 古川義純(北大・低温研)・遠藤辰夫(北大・理)・水野悠紀子(北大・低温研)・成瀬廉二(北大・低温研): 垂直風洞による人工降雪実験
348. 菊地勝弘(北大・理)・A. W. Hogan (ASRC, SUNYA): 南極点基地の Clear Sky Precipitation について
349. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理): 雪片の多孔性・表面粗度が雲粒捕捉率に及ぼす影響について
350. 播磨屋敏生(北大・理): 霰形成機構の地域性(その1)
351. 田中 浩・横山辰夫(名大・水圏研): 融解層のシミュレーション (Mie 散乱を用いた非分裂・非併合モデル)
352. 遠藤辰雄(北大・理): 氷晶の帯電(その4)
353. 菊地勝弘・上田 博・高橋庸哉(北大・理)・稲津和雄(日本電子科学会): 北陸における冬期の降水粒子の大気電気観測(その1, 宇ノ気での観測)
354. 藤吉康志(名大・水圏研)・高杉年且(京大・防災研): 層状性降水雲のレーダーエコー構造と電気的特性 その(2)
355. 仲野 貴・竹内利雄(名大・空電研): 北陸冬雷雲放電について
356. 仲野 貴(名大・空電研): 北陸冬雷雲放電の初期ストリーマー
357. 竹内利雄・仲野 貴・石川晴治(名大・空電)・S. Israelsson・S. Lundquist (Uppsala 大学, スウェーデン): 正の落雷を生ずる雷雲